

研 修 報 告

平成17年度研修の概要

農業農村整備事業に関する経済研修

当研究所は、農林水産省の研修の一つとして、農林水産省における経済関係行政の企画にあたるべき職員の養成を目的とする経済関係企画職員研修を昭和25年から大臣官房秘書課長の委託により実施してきましたが、昨年秋に秘書課において所管する研修全体の見直しを進め、研修の合理化と迅速的対応を図るなかで、経済関係企画職員研修も平成17年度から廃止することになりました。

経済関係企画職員研修は、平成15年度から研修課程の見直しを行い、基礎コースおよび個別課題コースを設定し実施してきました。基礎コースは、農村振興局の職員が主として参加しており、同局から平成17年度の実施についても強い要望が出され、同局の依頼により昨年度の基礎コースを踏襲した内容で同局の職員を対象とした「農業農村整備事業に関する経済研修」を実施することとしました。

農業農村整備事業に関する経済研修は、応用経済学を学ぶための基礎固めを目的とし、マクロ経済学、ミクロ経済学、農業経済学、環境・公共経済学、国際経済学、等に関する基礎的な理論を学ぶための講義を実施しました。

1 実施概要

実施時期：平成17年5月31日～6月10日

研修場所：農林水産政策研究所 研修庁舎

講義一覧：

講 義 科 目	講 師	講義数
ミクロ・農業経済学	樋口 倫生, 高橋 義文	12
マクロ経済学	林 岳	8
環境・公共経済学	小林 弘明 (和光大学教授)	8
国際経済学	渡部 靖夫, 小泉 達治, 川崎 賢太郎	8
農業金融論	清水 純一	2
投資の波及効果 (産業連関)	吉田 泰治	4
土地改良の費用対効果	農村振興局	6
		計 48

※1 講義は1時間

2 研修生の感想

平成17年度農業農村整備事業に関する経済研修を受講して

東北農政局 相坂川左岸農業水利事業所
工事一課 鵜沢 和弘

農業農村整備事業は平成17年度において約8,000億円の予算にて展開される公共事業である。私を含む多くの農業土木技官はこの予算を投資することによる経済効果(波及効果)、または何故多額の公共投資をする必要があるのかを経済学の観点から論理的に説明することができる者は少ないであろう。現在、私は現場において実際に予算を執行する立場になっているが、その予算が地域にどのような効果をもたらすか、または広い視点でみて何故その予算を事業に投資できるかということについて経済学の観点から論理的に説明することはできなかった。

その意味からして今回の研修において、ミクロ・マクロ経済学等基礎から学べたことはこれから行政官として特に公共事業を主とする仕事をしていくうえで非常に貴重な研修であった。

多くの講義を受けた中で私が特に興味を持ったのは農業の多面的機能についての議論である。私にとって農業の多面的機能とは洪水防止機能、水源涵養機能、良好な景観の形成等、農地を適切に保全し健全な農業経営が行なわれることで発揮される付加価値のようなものであると考えていた。この付加価値を発揮するためにはどのような方法があるのか、どのような農地の状態にしておかなければならないのかを科学的・物理的メカニズムの観点から長年考えてきた。しかし、農業の多面的機能とは私が考えていたよりも重要な議論であり、科学的・物理的なものだけではなく、経済学的さらには政策においても非常に重要な課題であるということが講義を通して分かり興味を持った。

まず、多面的機能を評価するに当たり、たとえば洪水防止機能を水田の持つ物理的な評価ではなく、経済的な評価を行うのには同様な市場における財で代替するために必要な費用により評価する代替法が用いられてきている。水田の洪水防止機能であれば、治水ダムの代替で評価されておりその効果は3兆円をも超す評価が得られている。評価方法や内容等はまだ定量的に説明できないものが多くあるように思われるが(例えば、代替法でも代替するもので効果の差、CVM法はアンケート対象者により評価の差があるような…),行政官として多面的機能の重要性、発揮させなければいけない理由をイデオロギーだけではなく、論理的に説明するのにも非常に分かりやすい手法であると感じた。また、経済性からみた多面的機能としては、発揮されている機能(利益)は、多くの人が共有でき、その利益を享受することを排除することが困難であることから、その効果を発揮するための投資を市場にまかせるのではなく我々が行う必要があるということになる。そのように考えると、農業土木技官として食料生産基地の確保だけではなく、農地等農村の地域資源を保全する事業を展開し多面的機能の発揮に貢献しているのだとも考えられる。

以上のようなことを考えながら、また、その他の講義でも教えて頂いたが私が、行っている仕事が経済学的にどのような効果をもたらし、何故必要なのかを考えながら仕事に取り組んでいくことを学べた経済学研修は非常に有意義であった。

現場における経済学の必要性について

近畿農政局 大和紀伊平野農業水利事務所
工事第一課 林 みゆき

用水不足が深刻であった奈良県の大和平野に歴史的悲願ともいえる吉野川分水が築造されて40年余りが経過し、営農形態等の変化に見合った水の再配分と施設の更新を目的に出発した国営大和紀伊平野土地改良事業は、今年で5年目を迎えました。通水期となれば豊かな水が大和平野を潤すように水路（吉野川分水）を流れてゆき、かつての水争いは遠い遠い昔話となりました。そして、この歴史的偉業についても都市化の進行等ある中で、農業とは無縁の方々は言うまでもなく、農業従事者であっても認識が低下しているという現状のようです。そのような中、奈良に来て2年目を迎えた私もこれまで地元の方々と我々の事業、具体的な工事の説明など話をしてきました。我々の事業や工事に対し、協力的な方、そうでない方々ではありますが、どのような話であれば聞いてもらえるのか、相手の知りたいことは何か、最終的に納得してもらえる話とはどのようなものであるのか、常に考えてきました。一方、そうした話に対する地元の反応はその多くが、我々の行為から何らかの利益を見出そうというものでした。自分の主張が通らない（利益がない）ならば協力はしないと答える方さえ珍しくない中で、相手に納得してもらえる話とは…思いやりと誠実な姿勢で論理正しく話をする力が求められると感じていました。ただ、これまでは目を見ながらの人と人とのやり取りでしたから、表情が見えることに助けられてきたように思います。

経済学というものは今後の行政官としての政策立案や土地改良事業の効果算定、農業のもつ多面的機能の重要性等について広く国民全体に示す上でのある種の方法として捉えていましたので、今この時期の研修受講の必要性、限られた現場での時間を削って即使えないものを学ぶということに対して、疑問を感じていました。そして、研修期間2週間がなければ、工事準備がどれほど進むことだろうかと考えていました。しかし、この『もし〇〇ならば、△△』という考え方がすでに経済学で考察されるテーマ、すなわち選択という行動であったというのです。明らかに受講前後で研修参加へのインセンティブが大きく成長しました。それは、受講して初めて経済学というものについての正確な情報を得ることができたためだと思います。ほんの導入部分の話かと思いますが、これまで敬遠してきた経済学を身近に感じるものが出来、本当に大きな驚きと感動でした。

そうして考えてみると地元説明の際の地元要望（利益追求）についても、選択行動の基本原則にあてはまっていることがわかりましたし、それに対する我々の返答がどういった

ものであるべきかも知るるよう思いました。思いやりと誠実な姿勢で論理正しく話をする力は、こうした個人の選択行動による意思決定を紐解くことで身につけられると知り、大きく気持ちが前進しました。そう、今現在の自分にとって経済学が必要なものであるとわかりました。

私は自分の携わっている農政の仕事について、胸を張って推進してゆきたいと思ってきました。それは、農政に対する自分の興味や志からでしたが、人に伝える言葉として上手に整理が出来ていませんでした。2年目を迎えた現場での地元説明においても、大きく農政全体の話をする場においても、この研修で出会った経済学の考え方を消化して、自分の言葉を作り上げてゆきたいと思います。

大きなきっかけを与えて下さった、講師の皆様と宮前課長にこの場をお借りして御礼申しあげます。ありがとうございました。